

矢坂山富山城と津和野藩主坂崎出羽守の千姫輿入れ襲撃事件

山陽新聞社OB 赤井 克己

千姫というと、戦国時代 3 大美女といわれる。母はNHK大河ドラマ「江 姫たちの戦国」の主演お江、父は徳川 2 代将軍秀忠。姫路城で本多忠刻（ただとき）の妻（再婚）として過ごした 10 年間は、最も幸せな時だったといわれる。長女勝姫は岡山藩主池田光政の妻。

だが、千姫が忠刻に嫁ぐ時に輿入れ襲撃事件があった。その主犯がここ岡山市矢坂・富山城主だったこともある津和野藩主坂崎出羽守直盛、岡山時代の名は浮田左京亮詮家（あきいえ）。岡山城主宇喜多秀家のいところ、父忠家の後を継いで 2 万 4000 石の家老だった。

秀家は大坂にすることが多く、領内統治は家老ら重臣に任せきりだったが、重臣が武断派と文治派に分裂、左京亮は武断派の筆頭格。両派の対立が高じて左京亮は「文治派を追放せよ」と大坂・備前屋敷に立てこもる事件をおこした。関ヶ原の戦いの前年である。家康の調停で何とか納まったが、武断派は宇喜多家を離れ、関ヶ原の戦いで東軍に属し、左京亮は功績大として津和野藩主（3 万石）になった。この時名前を坂崎出羽守に変えた。

慶長 20（1615）年、大坂夏の陣で大坂城が火に包まれて落城する時、徳川家康は孫娘可愛さから「千姫を救出した者には嫁にやる」と言ったとか言わなかったとか。この話を大正 10 年山本有三が戯曲で発表、映画や講談でもとりあげられ、人口に膾炙（かいしゃ）した。

千姫は美男の本多忠刻と再婚するが、坂崎は「約束違反をとがめるのでなく、武士の意地で襲撃する」と言いふらしていたから襲撃は失敗、切腹させられたとか、部下に殺されたとか諸説ある。53 歳。

千姫は坂崎が救出したというよりも、秀頼、淀君の命乞いのために送り出されたのを、坂崎が家康の本陣に送り届けたとする説が強い。また千姫が救出で顔面に大やけどをした坂崎を嫌って忠刻を選んだと言う説もあるが疑わしい。